

新たなる点火ユニットの 実力を探る

チューンされたハイスペックエンジンに対して、点火系は本当に純正のままでもいいのだろうか?ここではそんな疑問をもとに開発された点火ユニット“HIR”について紹介しよう

[text] 松崎裕次 [photo] 松崎裕次&編集部

エンジンの仕様ごとに 最適なマップを設定

基本的にエンジンのパワー特性を向上させるためのチューニングにおいて、どちらかという後回しにされがちな点火系チューン。おそらくその理由は、その違いを体感しやしい吸排気系チューンや排気量アップなどのエンジンチューンに対して、ややその効果に疑問を持つユーザーも多いのではないだろうか。

ここで紹介するトレーディングガレージナカガワ(以下TGN)の点火ユニット“HIR (Hyper Ignition Rader)”は、そんなユーザーと同様の視点から開発に着手。代表の中川氏いわく、フルノーマルからフルチューンまで、すべてにおいてその違いを体感できる点火ユニット、というコンセプトのもと、仕様の異なる数々の車両でテストを繰り返して、実に構想から2年もの歳月を経て製品化されたものだという。

「作業的にはまずノーマルの点火マップを読み取って、それに僕が色をつけていくところから始まったんですけど、単純に高回転でピックアップを引き上げるだけならともかく、それと同時に低中回転のパワーフィードを向上させるのは苦勞しましたね。たしかに高回転、中回転、低回転で、それぞれ点火電圧を上げていけば高出力を与えることができるんですけど、あまり電圧を上げすぎるとバッテリーやオルタネーター、コイルなどに負担をかけてしまう。結果的にパワーロスにつながってくるんですよ。パワーアップのために電圧は上げたいけど、それによって他の場所に弊害が出てしまう。要は

そのバランスですね。少ないながらも、絞ったながらも最大値を出せるギリギリの電圧っていうのは、一体何ボルトなんだろうって。結局それを突き詰めるのに半年ぐらいかかりました」

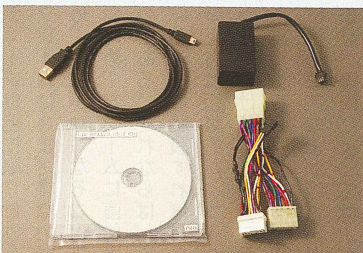
そのテスト段階ではシャーシダイナモがオーバーヒートするほどパワーチェックを繰り返して、数えきれないほど実走テストを重ねることにより、ようやくそのパフォーマンスを体感することができるマップ設定を実現し、製品化することができたというこのHIR。現在はGPZ750/900Rの他、ZZR1100、ZR1100Rの他、ZZR1100、GPZ1100用もラインナップ。ゼファ1750/1100、CB1000/1300SFなどのモデルについても開発中ということだが、それぞれのユニットはすべて車種や年式ごとに細かく分けられ、最大9チャンネルまで設定可能だ。そして、1〜3チャンネルには、さまざまなエンジンの仕様を想定した3パターンのマップと10パターンのレプリミットが初期設定で入力されている。

それらは大まかにいうと、1チャンネルはノーマルないしはマフラーのみ交換されたもの、2チャンネルはキャブレター、マフラー、カムシャフトなども交換されたものの、3チャンネルはキャブレター、マフラー、カムに加えてハイコンプレッションなどにより排気量アップされたもの、ということだが、オプションのリーダーキットを購入することにより、残りの4〜9チャンネルにはユーザー自身が任意のマップを入力することができるという。

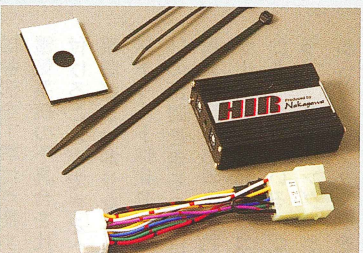
る3パターンのマップについては、それぞれ何度もベンチテストと実走テストを繰り返して、おそらくこの車両でこのエンジンの仕様なら、一番使う回転域はここで、進角度数はこのあたりが最適であろう、というもの各チャンネルごとに全部入れてあるので、基本的にほとんどのエンジンに対してポテンシャルを引き出せるようになっていますが、さらにリーダーキットを用いることにより、たとえば自分のバイクが何回転のとき進角度数は何度で動いているかをチェックしたり、それに変更を加えることでオリジナルのマップを作れるということですね。たとえば1〜

ランニングコストにも こだわったキット内容

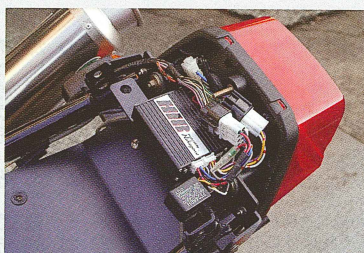
チャンネルに設定された点火マップをドライバー1本で切換可能。カプラーオンで簡単に接続できるというHIRキット。ちなみにタイミングローターは車種によりTGNのオリジナルパーツに交換する必要があるものの、後々ユーザーにかかるコスト的な問題も考慮して、ピックアップコイルについてはすべての車種において純正パーツがそのまま利用できるようになっている



④左のスタンダードタイプとPCに接続することにより、HIRが持つセッティング機能を最大限に活用することができるリーダーキット。ちなみに現在はWindows XPのみ対応とのこと



④こちらは本体と接続用カプラーなどが同梱されてスタンダードタイプ。3パターンのマップや10パターンのレプリミットが入力されており、そのままでも十分に楽しめる仕様となっている



④車体への装着は純正イグナイターを取り外しカプラーオン。あとはほぼ同じ場所にインシュロックで固定するだけという簡単なもの。ピックアップコイルも交換する必要はないという

④リーダーキットを購入すればPCと接続して入力するだけで簡単にマップに変化を与えられるHIR。モニターモードでは実際に自分のバイクが何度の進角で動いているか確認することもできるという

